

“より多くの人へ伝えるために”の巻

トショカンの舞台裏

弘大図書館のホームページで「デジタルアーカイブ」を公開しているのをご存知ですか？弘前大学が所蔵している貴重な歴史資料をデジタル化し、無料で公開しているものです。本来ならば、閲覧の申請書を出して許可されないと見られない貴重資料が、わざわざ図書館まで足を運ばなくても、世界中どこからでもインターネット上で閲覧できます。

今、研究成果や過去のデータのオープン化が加速しています。

.....時を越えて.....

現在、附属図書館の事業として、「国立弘前高等学校資料群」という 1,400 点以上もある膨大な資料の一部デジタル化を進めています。令和 4 年度は「開校・閉校関係資料」「北溟寮関係資料」「教務日誌」をデジタル化して公開し、令和 5 年度は「本省令達書類」「式典関係資料」を公開しました。

このうち、特にご覧いただきたい資料が「教務日誌」の「昭和 20 年（1945 年）」です。そう、終戦の日のことが書かれています。その日は、午前 7 時から生徒は農作業をしていて、正午のラジオでポツダム宣言を受諾し停戦したことが発表されたと記されています。この資料は文字が裏写りして非常に読みにくいのですが、当時を知ることができる、とても貴重な資料です。画像でも分かりますが、戦争中はどんどん紙質が悪くなり、昭和 20 年に至っては、薄い紙の両面に書いているので文字が裏写りしてしまっています。むしろ大正時代の資料の方が、紙質も良くて今でも綺麗な状態で残っています。

.....後世に残すために.....

デジタルアーカイブの仕事は、資料の選定から始まり、見積合わせで業者を決めて、資料の撮影、公開用画像の作成、と進めていきます。古い資料なので、画像にした際に文字が読めるかどうか、全ページについて確認します。文字が薄くて読めない



ページは色を調整して濃くすることもあるし、再撮影してもらうこともあります。細かい確認作業が多く、目が疲れます。でも、この資料を公開して後世に残すことにより、いつか研究に役立つかも、という思いで、デジタル化を進めています。

.....学術情報をオープンに.....

令和 6 年 5 月 17 日、弘前大学オープンアクセスポリシーが策定されました。オープンアクセス（以下 OA）とは、学術論文をインターネット上で公開して、誰でも無料で読めるようにしようとすることです。現在、学術雑誌の値上がりにより多くの大学で学術雑誌・電子ジャーナルを維持するための財源を確保することが非常に困難になってきています。そこで世界的に出てきた動きが学術論文の OA 化です。OA にする方法は 2 つあり、一つは OA 誌に投稿する、または OA のオプションを選択する方法で、APC（論文掲載料）を支払うゴールド OA という方法です。もう一つは、大学等が運用する機関リポジトリに掲載するグリーン OA という方法です。リポジトリなら無料で論文を公開できます。

2025 年の新規公募分から科研費による研究成果の即時 OA が求められることに伴い、各大学でも OA 方針を策定し、積極的に OA 化を進めています。本学でも、OA 化をこれから積極的に進めていく予定ですので、皆様のご協力をお願いいたします！



「貴重資料一覧」

<https://ul.hirosaki-u.ac.jp/collection/rare/>